

|  |  |              |   |     |       |
|--|--|--------------|---|-----|-------|
| 科目ナンバー   | 年度・学期  | 時間割所属・時間割コード | 開講年次  | 単位数 | 曜日・時限 |
| RDM7-004-99-2  | 2024通年   | 医学教育部(20050) | 1, 2, 3, 4  | 2   | 他     |
| 科目名(講義題目)  |  |              | 担当教員  |     |       |
| 感染症制御学理論【Infection and Immune Control】(B4感染症制御学理論)   |  |              | 佐藤 賢文, 桑田 岳夫, 池田 正徳, 久保田 龍二, 岡田 誠治, 押海 裕之, 松井 啓隆, 本園 千尋, 松岡 雅雄, 澤 智裕, 前田 洋助, 鈴木 伸也, 中田 浩智, 池田 輝政, 田中 靖人 |     |       |
| 学修成果とその割合  |  |              |   |     |       |
| 1.高度な専門的知識・技能及び研究力……30% 2.学際的領域を理解できる深奥な教養力……30% 3.グローバルな視野と行動力……20% 4.地域社会を牽引するリーダー力……20% |  |              |   |     |       |
| 授業の形態  | 講義   |              |   |     |       |
| 授業の方法  | 質疑応答を重視した講義形式で、Power point等を活用する。なお遠隔地の学生や社会人学生等には、補講、集中講義、ビデオ講義あるいはe-ラーニング等により対処する。(講義形態の詳細については講義開始時に受講生に連絡する。)  |              |   |     |       |
| 授業の目的  | 以下の点について理解することを目的とする。(1)感染症をおこす病原体と宿主の反応(2)細菌およびウイルス感染の分子病態、(3)感染症に対する免疫反応とワクチン開発の戦略、(4)院内感染と日和見感染症のコントロール、(5)新興再興感染症の診断と治療  |              |   |     |       |
| 学修目標   | 【A水準】<br>病原微生物、それらが引き起こす感染病態および宿主の応答に関する知識を深めるとともに、病原微生物に関する基礎研究およびこれらを克服するためのワクチンあるいは薬剤の開発に関する応用研究の成果およびその意義あるいは今後の課題について議論し、これらの研究を実践できるようにする。<br>【C水準】<br>病原微生物が病気を起こすメカニズムについて理解する。<br>病原微生物に関する基礎研究の現状と課題を把握する。<br>病原微生物に対する治療(ワクチンや治療)の現状や今後の課題について理解する。   |              |   |     |       |
| 授業の概要  | 人類の歴史は感染症との闘いの歴史であったといっても過言ではない。今日の先進国における寿命の延長に果たしてきた感染症研究の貢献は計り知れないものがある。中でも、様々な感染症に対するワクチンの開発、細菌感染に対する抗生物質の開発、さらに治療困難とされてきた慢性ウイルス感染症に対する治療薬の開発は社会に大きなインパクトを与えてきた。これらの研究成果は、病原体の基本的な性質や生活環についての多くの基礎研究に基づいてなされてきたものである。授業では、病原微生物の感染病態と宿主の反応、ウイルスの生活環の研究と有効な抗ウイルス薬の開発、さらに病原体の持つ免疫反応からの逃避を克服するためのワクチンの開発戦略について、最新の研究成果を解説するとともに、講師らの研究成果を含めて講義する。 |              |   |     |       |
| 各回の授業内容  |  |              |   |     |       |
| 回  | 月日   | 授業テーマ        | 内容概略  |     |       |
| 1  |  | 池田 輝政【eE-O】  | レトロウイルスのライフサイクル   |     |       |
| 2  |  | 澤 智裕【eE-O】   | 細菌感染症の分子病態  |     |       |
| 3  |  | 押海 裕之【eE-O】  | 自然免疫応答による感染制御   |     |       |
| 4  |  | 本園 千尋【eE-O】  | 細胞性免疫応答による感染制御  |     |       |
| 5  |  | 桑田 岳夫【eE-O】  | 液性免疫応答による感染制御   |     |       |
| 6  |  | 未定__         | 未定_____   |     |       |
| 7  |  | 佐藤 賢文【eE-O】  | 未定_____   |     |       |
| 8  |  | 鈴木 伸也【eE-O】  | レトロウイルス-宿主相互作用  |     |       |
| 9  |  | 佐藤 賢文【eE-O】  | レトロウイルスと潜伏感染  |     |       |
| 10   |  | 池田 正徳【eE-O】  | 肝炎ウイルスの分子病態   |     |       |
| 11   |  | 田中 靖人【eE-O】  | 肝炎ウイルスと肝がん  |     |       |
| 12   |  | 久保田 龍二【eE-O】 | ウイルス感染症と神経疾患  |     |       |
| 13   |  | 岡田 誠治【eE-O】  | 小動物モデルを用いた感染症研究   |     |       |
| 14   |  | 松井 啓隆【eE-O】  | 感染症における臨床検査の役割  |     |       |
| 15   |  | 中田 浩智【eE-O】  | 院内感染と日和見感染症のコントロール  |     |       |
| 授業外学修時間の目安   | 本科目は、90時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は30時間分(2h×15コマ)となるため、60時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。   |              |   |     |       |
| テキスト   | 特に指定はせず、講義に関連した参考論文などを紹介する。  |              |   |     |       |
| 参考文献   | “Atlas of AIDS” edited by Gerald L. Mandell and Donna Mildvan. Current Medicine, Inc. Philadelphia, 2001. 和訳本:カラーアトラスAIDS;原書第3版(福武勝幸監修、サイエンスプレス、2002年)<br>“Infectious Diseases and Medical Microbiology” 2nd Edition, Abraham I. Braude et al., W.B. Saunders Company  |              |   |     |       |
| 履修条件   | 本講義をに必要な基礎知識と、十分な学習意欲を有していること。   |              |   |     |       |
| 評価方法・基準  | 本講義は15名の教員によってなされるオムニバス講義である。講義への積極的な参加、講義中の質疑応答や、講義終了後に提示されるテーマに関するレポート、小試験等により、【授業の目的】に掲げた事項についての理解度を評価する。各講義に関して、成績評価(小テストまたはレポート提出)を行い、2/3以上の評価が得られていることを修了の条件とし、さらに、評価された中から、上位10講義の得点の平均値をもって成績とする。  |              |   |     |       |
| 使用言語   | 「英語」による授業  |              |   |     |       |
| 教科書・資料の言語  | 「英語」のテキスト  |              |   |     |       |
| 実務経験を活かした授業  | 非該当  |              |   |     |       |